



友愛の森(二中だより)



学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造
令和5年9月29日発行

グローバルな人になって活躍して欲しい～9月全校朝礼より～

校長 望月 俊伸

宇宙のとある星のお話。

その星では、お家や学校や遊び場に爆弾が降っていました。14才以下の少女が、7秒に1人結婚していました。見渡すと、1億5000万人もの子どもたちが働いていました。その星は、地球です。この物語を変えましょう。

これは、国際NGO団体「セーブ・ザ・チルドレン」が取り組む、世界の過酷な状況にいる子どもたちの問題について取り上げた、ACジャパンの広告です。

世界に目を向けてみると、皆さんと同年代、あるいはもっと幼い子どもたちが、日々命の危険と隣り合わせで、今日を生きるだけで精一杯の生活を送っている現状があります。この物語を書き換えるにはどうしたらよいのでしょうか？このような状況が生まれてしまうのには、紛争や貧困、差別や偏見など、様々な要因が挙げられます。しかし、この中のひとつを解決すれば、子どもたちを取り巻く環境が改善されるわけではありません。

私たちに何ができるのでしょうか？第一歩は、実際に起きている問題についてまずは知ることです。この夏休みに、広島市への中学生派遣事業に本校の代表として参加した3年の早房安菜さんは、参加の動機について、次のように述べています。

「私には春休みに家族と一緒に広島へ行くという計画がありました。『日本人として一度は見ておいた方がよい』という母の考えがあったようですが、私は原爆ドームなど悲惨な資料を見る勇気がその時は持てず、計画は変更となりました。何ヶ月か経ち、広島派遣事業の募集のプリントが配られた時、広島に呼ばれている気がしました。事実を受け止め、伝えなければならない、そんな思いが芽生え、行くことを決意しました。」

次にできることとしては、周りの人にその情報を伝えたり、活動に参加したり、寄付を行ったりするなど、実際にアクションを起こしてみることです。私もこの朝礼を機に、セーブ・ザ・チルドレンの活動に寄付をしました。それにより、栄養不良の子ども6人に、1週間分の栄養治療食を提供することができるのだそうです。現在、富士宮第二中学校で取り組んでいるエコキャップ回収による世界の子どもたちへのワクチン支援や、誰ひとり取り残さない世界の実現を目指すSDGsへの取組は、問題解決のための価値ある行動のひとつです。更にはできることがあるとすれば、身近な人に感謝することだと思います。安全な生活を送れていること、こうして学校に当たり前に通えていること、世界の情勢から見ると、とても幸せなことです。今自分が置かれている現状に感謝し、その気持ちをまずは最も身近である家族に伝えてみてはどうでしょうか？

世の中は、自分1人だけがよくなる、1人だけをよくすることはできません。周りがよくなることで自分もよくなるのです。考えてみてください。自分が生活する学級が、学年が、学校が、劣悪な環境だとしたら、自分1人だけよりよく成長していけるのでしょうか？自分が住む地域が、日本が、世界が、安全で平和な場所でないとしたら、安心した生活が送れるのでしょうか？同じ地球号の乗組員である私たちは、この乗り物から降りることはできないのです。今世界で、地球で、何が起きているのか、関心をもって生活してほしいと思います。

最近、よく耳にする言葉で「グローバル」という言葉があります。これは、グローバル（世界的な）とローカル（地域的な）を繋ぎ合わせた造語です。二中生の皆さんには、ローカルな視野をもって世界で活躍する、あるいは、グローバルな視野をもって地域で活躍する、「グローバル」な人になってほしいと願っています。

希翔祭「文化の部」10月24日 「運動の部」11月1日

9月25日、希翔祭に向けて、決起集会が行われました。今年は、文化の部、運動の部、同時進行で準備を進めることとなります。スローガン「グラデーション」のもと、生徒主体の学校づくりを目指し、一人一人輝ける行事にしたいです。力を合わせてがんばりましょう！！

希翔祭実行委員長 馬飼野愛加さん

今日からいよいよ希翔祭の練習が本格的にスタートします。二中の一大行事である希翔祭を成功させるために、全員で気持ちを1つにしてがんばっていきましょう。さて、皆さんは今年の希翔祭スローガンを覚えていますか？今年のスローガンは「グラデーション」です。グラデーションは、色の明暗や色調が徐々に変化するという意味があります。個性を色として捉え、個人の努力や取組から始まり、仲間と共にお互いを刺激し合いながら、クラス、学年、最終的には二中というカタチとなって、中学生全員で希翔祭を彩っていく。スローガンには、そんな思いが詰まっています。このスローガンを達成するには、一人一人の役割がとても重要です。クラスの、学年の、二中の一員として、自らの色を変化させながら、素晴らしいグラデーションで輝きを放っていきましょう。今年は、コロナが5類に引き下がったことにより、観客の制限も以前より緩和されました。私たちの成長を見ていただくと共に、やっぱり中学生はカッコいいな、輝いているなど見てくださる方々に感じていただけるように、「私たちだけの今年の希翔祭」を創り上げていきましょう！希翔祭実行委員長として精一杯努めますので、皆さんもご協力よろしくお願いします。

希翔祭文化の部実行委員長 成島心奏さん

文化の部当日まで残り29日となりました。希翔祭スローガンである「グラデーション」のように、一人一人の個性を段階的に変化させるには、ただ歌うのではなく、どこを意識して歌うのか、話し合ったり、クラスで同じ目標に向かって練習したりすることが大切だと思っています。そして、一人一人の色からクラスの色ができあがり、スローガンの達成に近づくのではないかと思います。各クラスで培った歌声を市民文化会館に響かせ、感動や達成感で彩る文化の部にしましょう。また、今年は例年と違い、文化の部が運動の部よりも早く行われます。期間が短い分仕上げるのも大変になるかと思いますが、一回一回の練習を大切に、二中全員の思い出に強く残る文化の部にしましょう。残り29日、皆さんで一体となってがんばっていきましょう！

希翔祭運動の部実行委員長 市川桃彩さん

希翔祭のスローガンである「グラデーション」は運動の部で完成します。一人一人の個性が競争で表現され、それぞれが、赤・白・青軍で団結し、大きな中学生のグラデーションとなって輝きを放ちます。そのためには、一人一人が競争に全力で取り組み、自分の個性を表現していく必要があります。また、その個性をお互いに認め合い、小さなグラデーションをつくり、繋げていかなければなりません。それを繋ぐのがバトンです。前の人から繋いできたバトンは一人一人の個性を混ぜ合わせたものです。それは本番できあがるものではありません。これから始まる皆さんの練習を積み重ねて、思いの詰まったバトンを全員で繋いでいく必要があります。そのバトンは今、この時点から繋がっています。運動の部まで残り1ヶ月となりましたが、このバトンを繋げられるよう、練習から全力で取り組み、全校で美しいグラデーションをつくりあげましょう！二中最大行事を最高の思い出として。

応援団総団長 小尾世流さん

僕は、希翔祭運動の部を最高の思い出に、そして良い形で終われるようにしたいです。皆さんの思う良い形とは、どのようなものですか？僕の思う良い形とは、希翔祭スローガン「グラデーション」を達成し、その後の学校生活でも継続していくことだと思います。僕たち応援団は、応援団としての色を全校応援で表していきます。希翔祭運動の部での応援は、三色の色が協力して、唯一行う競技です。その全校応援を、昨年度、そしてこれまでよりもレベルアップしたより迫力のある応援にしていきたいと思っています。そのためには、僕たちだけでなく、皆さんの力が必要です。僕たち応援団と一緒に最高の応援を創り上げましょう。そして、最高の希翔祭にしましょう。